

# 令和7年度 三豊市観光推進委員会 議事録

日時：令和8年3月19日（木）14：00～

場所：三豊市危機管理センター3階 301・302会議室

## 委員

株式会社たからだの里 課長・・・・・・・・青野 美和 さま  
香川県観光協会 専務理事・・・・・・・・佐藤 今日子 さま（副委員長）  
三豊市ホテル旅館民宿 同業組合 理事長・・陶山 正人 さま  
三豊市商工会理事・女性部部長・・・・・・壺谷 早苗 さま  
香川大学 副学長・・・・・・・・・・・・原 直行 さま（委員長）  
三豊市観光交流局 会長・・・・・・・・・・樋口 憲一 さま  
元・地域活性化起業人・・・・・・・・・・溝端 直毅 さま

## 事務局

三豊市産業政策課・三豊市観光交流局

## 1. 開会

### 事務局：

『令和7年度三豊市観光推進委員会』を開会する。

本委員会は、各分野から7名の委員に参画いただき、三豊市の観光振興の基本指針となる「三豊市観光基本計画」の策定及び進捗状況の評価・検証等を実施するため設置するものである。

## 2. 委員長および副委員長の選出

### 事務局：

次第2、「委員長および副委員長の選出」を行う。

委員長の選出につきましては、設置要綱第6条により、委員の互選により定めることとなっている。

（委員より原委員の推薦があり、承認された。）

**委員長：**策定委員会の委員長も務めた経験があり、三豊市の観光推進に強い思い入れがある。少しでも貢献できればと考えている。

**事務局：**ここからは資料1 設置要綱第7条の規定により、議長であります委員長に副委員長の選定から進行していただく。

**委員長：**資料1 設置要綱第6条により、会長から、副会長1名を指名させていただきます。副会長に、佐藤委員を指名する。

### 3.議題

#### 3－（1）第3次観光基本計画に基づく令和7年度実績報告について

**委員長：**次第3（1）「第3次観光基本計画に基づく令和7年度実績報告について」、事務局より説明をお願いします。

**事務局：**

————資料2 三豊市第3次観光基本計画アクションプラン実施報告書の通り————

**委員長：**「第3次観光基本計画に基づく令和7年度実績報告について」について、質問等はあるか。

#### 質問①宿泊者数調査について

**A 委員：**宿泊客数が増加している理由は何か

**事務局：**OTAの導入により、これまで以上に正確なデータ把握が可能となったこと、また、インバウンド需要が回復していることが要因である。

**A 委員：**インバウンドについて、どの国・地域からの来訪者が多いか

**事務局：**台湾及び香港からの来訪者が多い。

**B 委員：**宿泊客数については、国が実施している宿泊旅行統計調査では、宿泊者数が10人未満の場合は申告不要となっているが、市ではどのように集計しているのか

**事務局：**市独自で調査を実施しており、市内宿泊事業者へ協力を依頼し、宿泊者数が10人未満の場合も含めて回答いただいている。

#### 質問②統計結果の公開について

**A 委員：**宿泊客数や観光入込客数等の統計データについて、オープンデータとして公開しているか

**事務局：**観光交流局のホームページにおいて公開している。

#### 質問③入り込み客数調査について

**B 委員：**観光入込客数は推計値によるものか

**事務局：**市から各施設へ依頼し、提供を受けた数値を集計している

#### 質問④観光消費額調査について

**B 委員：**観光消費額について、今後調査を実施する予定があるか

**事務局：**令和7年度は実施できていないため、令和8年度または令和9年度に実施を予定している

**B 委員：**国においても、観光消費額の正確な数値把握を進めている。

**事務局：**毎年実施することが理想ではあるが、土産物店や飲食店など幅広い事業者を対象とする必要があり、実施には難しい部分がある。

#### 質問⑤富裕層向けコンテンツについて

**A 委員：**せとうちDMOの商談会に参加した際、富裕層向けコンテンツとして、どのようなものが評価されていたか

**事務局：**志々島が魅力的との評価を受けた。国国内観光客の需要とは異なるテーマ性がある。

**C 委員：**現在の志々島の状態そのものが評価されているということか

**事務局：**開発されていない自然な状態が評価されており、秘境的な雰囲気である大楠が人気である。

**C 委員：**花畑についてはどうか

**事務局：**花畑についてもストーリー性があり人気はあると思われるが、特に秘境感のある点で大楠が評価されている。

**C 委員：**島民が今後地域づくりを進めていこうとしている中で、その方向性との兼ね合いが気になった。また、宿泊を伴う観光を考える場合には、清潔感のある宿泊施設が必要。さらにトイレの環境整備が不十分な状態では厳しい。自然環境は維持しつつも、一定の整備は必要ではないかと思う。

#### 質問⑥瀬戸内国際芸術祭について

**A 委員：**瀬戸内国際芸術祭における粟島の今後の方向性は今後どうする予定か。高齢化が進んでいることから、これまでの運営方法を見直した方が良いのではないか。また、展示作品を仁尾地区に展示するなど、他地域との連携も重要ではないか。

**事務局：**瀬戸内国際芸術祭の開催は島民からは好意的な意見をいただいている。また、島の活性化については、粟島では芸術家村として毎年取り組みを行っている。なお、瀬戸内国際芸術祭の作品を島外で展示することについては、県との調整事項もあるため、市として現時点では判断できない。

**B 委員：**市民を対象とした瀬戸内国際芸術祭の認知度に関するアンケート調査を実施し

ているか

**事務局**：現時点では実施していない。

**B 委員**：小豆島ではアンケート調査を実施しており、グリーン・デスティネーションズに関する調査も行っている。市民が十分に認知していない状況はもったいない。

**事務局**：今後検討する。

### 3 - (2) 令和8年度アクションプラン（案）について

**委員長**：次第3（2）「令和8年度アクションプラン（案）について」、事務局から説明をお願いします。

**事務局**：

————資料3 三豊市第3次観光基本計画アクションプラン実施計画書の通り————

**委員長**：令和8年度アクションプラン（案）について、質問等はあるか。

#### 質問①秋冬強化について

**B 委員**：秋季における宿泊者数や観光入込客数は少ない状況なのか

**事務局**：令和7年度は瀬戸内国際芸術祭の開催年であったため、10月は比較的盛り上がりを見せていた。一方で、瀬戸内国際芸術祭の開催年以外は、9月頃から観光客数が落ち込む傾向がある。

**B 委員**：9月の観光需要をさらに高めることはできないか。夏季と同様のアクティビティを実施できる時期であり、可能性があるのではないか。また、秋季・冬季の観光振興を進めるにあたり、どの層をターゲットとするのかを明確にすることが重要である。

#### 質問②教育旅行について

**C 委員**：観光客が比較的少ない時期に教育旅行を誘致したい。先進事例を参考にするだけでなく、新たなコンテンツを創出する取り組みを進めるべきではないか。参加者の想像力を刺激するような体験型コンテンツづくりが重要ではないか

**事務局**：どのようなコンテンツが求められているのか、市場調査を行うことも重要であると考えている。

**C 委員**：後発地域であるからこそ、新しい切り口が重要であり、よりスピード感を持って取り組んでもらいたい。

**A 委員**：30名規模の団体を受け入れ可能な施設は、現状ではふれあいパークみに限られる。文化体験についても、例えばうどん打ち体験などは30名規模での受け入れが難しい状況である。

**C 委員**：スポーツ合宿は春季・夏季などの繁忙期に集中するため、受け入れが難しい。そ

のため、シーズンとしては閑散期である秋季・冬季に教育旅行を誘致する方向性が考えられる。大学生などもターゲットにしていきたい。

#### 質問③市民向け観光地認知度について

**C 委員**：地域住民の観光に対する認知度が低いとの話があったが、その点に対する取り組みはあるか。自治会へのアプローチなども必要ではないか。

**事務局**：紫雲出山の桜鑑賞会など、市民向けプログラムを実施している。今後も季節ごとに市民向けの取り組みを展開していく予定である。

**C 委員**：イベント形式では観光に興味・関心のある人のみが参加する傾向があるため、関心の薄い人に対してもアプローチしていくことが必要ではないか。

**事務局**：市民が集まる機会や場を活用しながら、情報発信を行っていきたい。

#### 質問④GSTC 認証について

**A 委員**：GSTC 認証を目指す目的はなにか

**事務局**：欧米圏におけるブランド力強化に寄与すると考えている。三豊市としてはサステナブルな観光地を目指していること、日本国内で取得事例がない点や、Green Destinations「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」に選出されたことは様々な反響があった。

**B 委員**：認証を取得した場合でも、富裕層旅行者を受け入れる体制が十分ではないのではないか。

**事務局**：フランスで行われた Green Destinations「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」の授賞式で話を聞くと、GSTC 認証に関心を持つ顧客層は、必ずしも富裕層に限定されるわけではなく、三豊市内の宿泊施設でも受入可能。